

(10)九州



九州地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

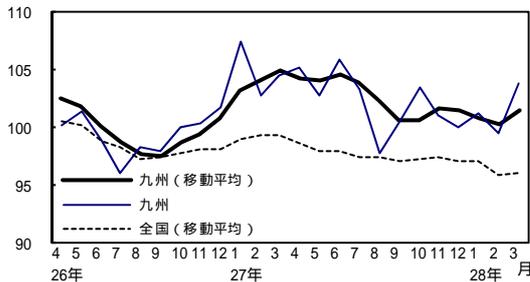
	前回 (平成 28 年 2 月)	今回 (平成 28 年 5 月)	
景況判断	緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1～3月期には、輸送機械は、部品供給の障害による工場停止等により、減少した。電子部品・デバイスは、国内向けのテレビチューナーの増加により、半導体集積回路(ロジック)が順調だったこともあり、増加した。はん用・生産用・業務用機械は、ボイラ・蒸気タービンの部品・付属品等で減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	24.5	9.7	3.0	3.8	6.2	9.8
電子部品・デバイス	12.3	3.8	1.8	14.6	3.3	2.8
はん用・生産用・業務用機械	11.2	2.5	3.1	10.0	1.2	24.2
食料品	9.6	1.0	1.4	5.6	2.5	0.1
化学・石油石炭製品	8.3	2.8	10.6	7.8	8.8	2.1
鉱工業	100.0	1.0	0.0	1.2	1.6	4.3

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

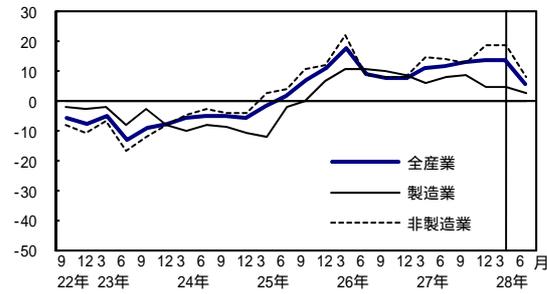
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

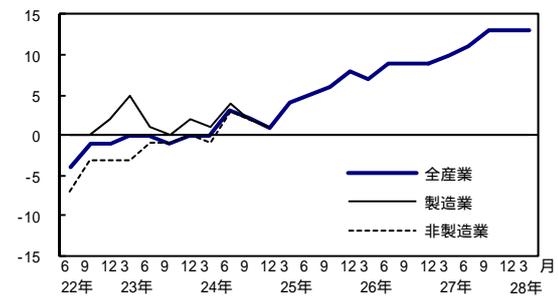
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



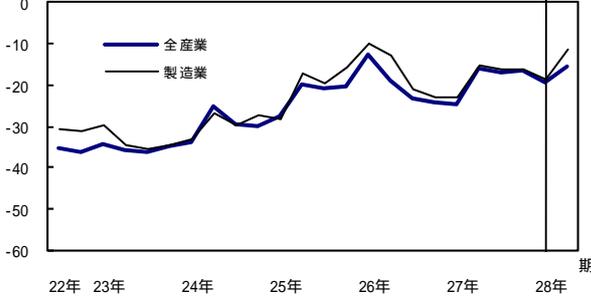
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



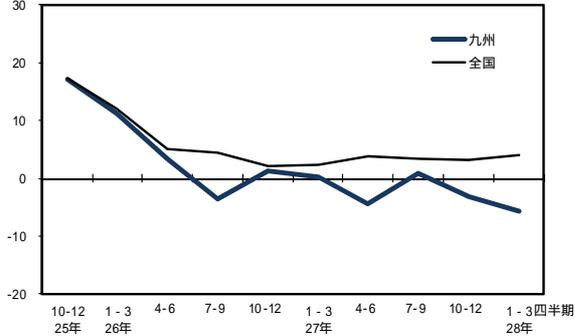
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「4月度の受注額、受注件数共に前年比で横ばいである。熊本地震もあり、サプライヤーの被災と物流の停滞、旅館やホテルなどのダメージも影響している(家具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績見込み	28年度値
全産業	26.5(2.7)	0.2
製造業	62.7(5.7)	2.4
非製造業	3.8(2.0)	2.9

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2.リース会社対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.8%増、2月は同0.9%減、3月は同2.3%増となった。

百貨店・スーパー販売額

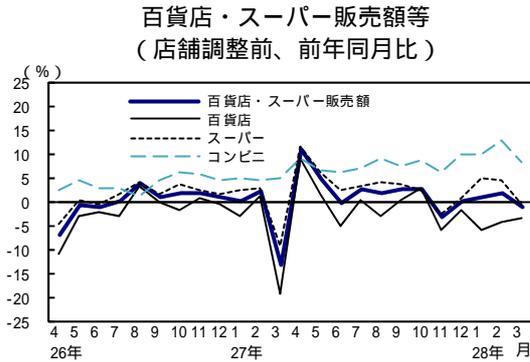
1月下旬の大雪の影響で営業時間を短縮する店舗がみられ客足が遠のいたこともあり、全体的に低調で前年を下回った。2月は気温の寒暖が激しく冬物衣料が低調で、前年を下回った。3月は、中旬から下旬にかけて気温が下がり春物衣料が低調で、前年を下回った。

スーパーは、飲食料品の動きが良く、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、31.3となり前月より14.4ポイント低下した。

「熊本地震後も人出はあるが入店客数が減っている。4月はトラベル用などの服が売れる月だが今年は需要が少ない(衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



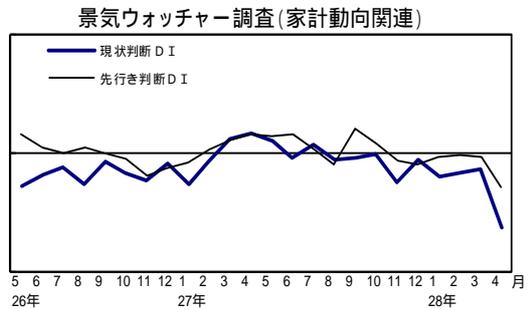
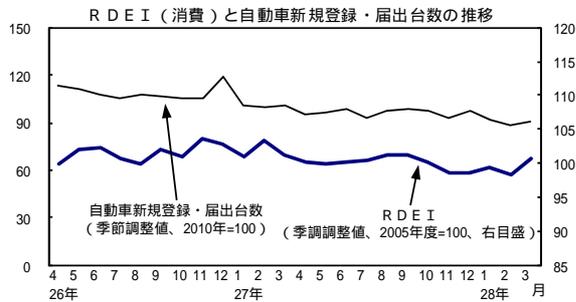
	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.4	0.8	0.9	2.3
百貨店・スーパー(*2)	0.4	1.1	1.6	1.3
百貨店(*2)	4.5	5.8	4.3	3.3
スーパー(*2)	2.8	4.8	4.5	0.5
コンビニ(*2)	10.2	10.0	12.7	8.1
乗用車(*3)	9.9	9.3	11.2	9.3
(季節調整値)(*3)	6.0	6.2	3.1	1.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

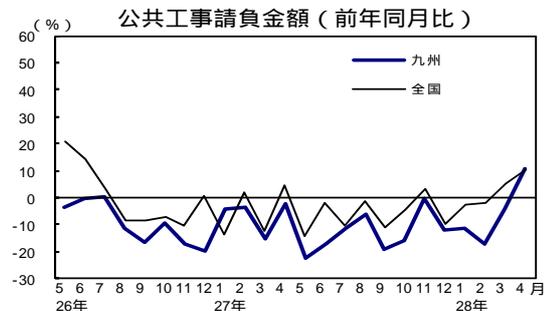
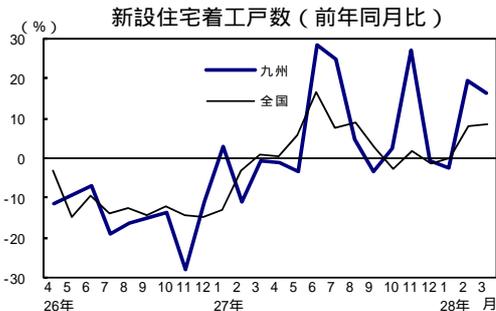
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

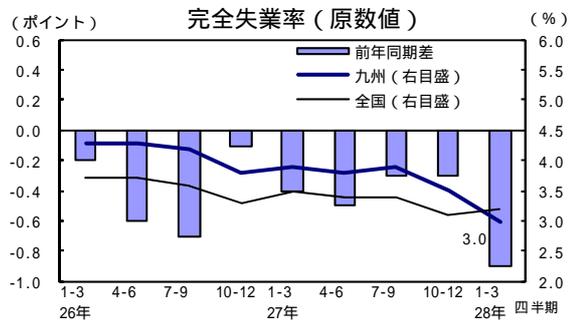
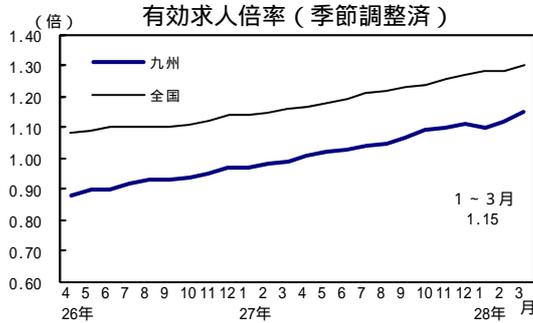


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]

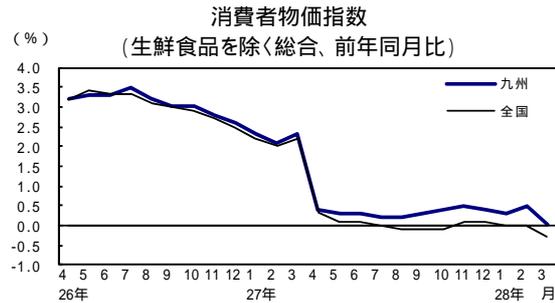
「3月以降の求人数は前年度と同推移である(学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数	184	158	147	151	51
(前年比)	1.6	17.0	9.3	13.7	19.0
負債総額	257	216	274	395	92
(前年比)	23.4	17.3	27.1	60.4	19.9



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [合計 (景気判断において熊本地震に言及したもの)]

<現状>

- 熊本地震があり、宿泊客の減少や宴会の中止、出席者の欠席などが多く、売上が下がっている。この影響が上期まで回復できない可能性が大いにある(都市型ホテル)。

<先行き>

- 熊本地震の影響で取引先の生産が海外や他県へ移るため、仕入れ困難な状況が続く(その他製造業)。

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

